

# 瀬部小だより

臨時号

平成 19 年 3 月 20 日



## 饒の言葉

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

本校は今年、明治40年3月6日の西成第一尋常小学校から数えて100年を迎えました。この歴史的な100年、そして一宮市立瀬部小学校になってから、第60回目の卒業式という佳節に、皆さんはめぐり合えました。本当におめでとうございます。また、この良き日に保護者の皆様を始め多くのご来賓の方々においでいただきました。心より御礼申し上げます。

さて、今年のNHK大河ドラマ「功名が辻」(司馬遼太郎)で一躍有名になった山内一豊(1545～1605)とほぼ同じ時代を生きた一人の武将が、この地域で晩年を過ごしました。四百数十年以上も昔、文禄二年(1593)ごろ、時之島本郷の地に時之島城がありました。今は、その城跡などははっきりとは分かりませんが、本郷から時計回りに上屋敷、南屋敷、中屋敷、西屋敷などの小字名が残っているのは、その城の主を始め家来たちが住んでいた屋敷があったからだと言われています。

その殿様の名前は、日根野弘就と言います。時之島城にいた頃は、日根野法印と名乗っていたようです。さて、その弘就(1518～1602)は、美濃(現在の岐阜県)の生まれで、学問・武勇ともに優れた斉藤道三の家老でした。しかし、弘就は、道三の信長寄りを嫌って道三の子、斉藤義竜に従い、弘治二年(1556)4月「長良川の戦い」で道三を破ります。そして、義竜亡き後は、その子、竜興に仕えたのですが、結局、斉藤家は信長の前に滅びます。そこで、斉藤家の滅亡とともに、信長に倒された今川義元の子、今川氏真(うじざね)に仕え信長に対抗しようとしします。しかし、氏真も信長の前には敵ではありませんでした。その後、浅井氏や石山本願寺と手を組み、信長に戦いを挑みました。ところが、愛知県の長島町一帯で起きた一向一揆と信長との闘いで、長島の一向一揆側についた弘就が絶体絶命の場面に追い込まれたのです。その時、弘就の息子、徳太郎は潔く「侍ならば、戦場で死ぬのは覚悟のうえやわい」と言います。しかし、父、弘就は「その覚悟、いよいよのときだけにしておけ。負け戦で死ぬのは犬死や。侍はいかにしても勝つことを考えるのが本物や」と言います。しかし、そうは言いながらも弘就は心の中で『ここで死ぬよりは生きていたほうがましだ』と自分自身に言い聞かせ、決して「生きる」のをあきらめなかったのです。天正元年(1573)の秋、弘就はついに信長側の捕虜となったのです。そして、驚いたことに「いつか、必ず信長に勝つ!」と激しく信長に敵対していた弘就が、宿敵の信長に請われ、あろうことが信長の家来になったのです。(岐阜県出身で松本清張賞受賞作家の岩井三四二作「浪々を選びて候」より)

日根野弘就はなんという節操のない男だと思われるかも知れません。しかし、弘就は歴

史の波に翻弄され、苦しみながらも、戦乱の時代を必死で生き抜いたのです。弘就はどんな困難な状況のなかでも、不屈に立ち上がります。弘就の評価は様々ですが、踏まれてもじっとこらえて芽を出す雑草の力強さを感じてなりません。

皆さん、これからの人生において、八方塞がり、どうにもならないと思うようなときもあるかもしれません。しかし、日根野弘就のように、最後の瞬間まであきらめず、前を向いて生きてほしいと思います。自暴自棄になって、あきらめるより、ほんの少しの可能性でも見出して生きるのです。戦いには負けても、心は負けてはならないのです。自分を見捨ててはなりません。どんな困難な状況に立たされても、弘就のように命ある限り「たくましく強く生き抜く」挑戦をし続けてほしいと思います。

以前話したライオンキングのことを覚えていますか。悲しみに沈んでいたライオンの王子シンバは、旅の途中で、落ちこぼれのイボイノシシのブンブアとミーアキャットのティモンと出会います。シンバは、この二人に励まされます。ティモンは「世間がこっちを見捨てたなら、こっちが世間を見捨ててやればいい。」と言います。そして、ブンブアとティモンの二人はシンバに「ハクナ・マタータだよ。いいかい、どんな時でも、どんなふうになっても、ハクナ・マタータさ」と声をかけます。これは、スワヒリ語で、「くよくよするな！」という意味です。「元気を出せよ」「勇気を出せよ」「いつまでも悪いことが続かないさ、きっと良くなるさ」という励ましの言葉です。

友だちのこと、成績のことで、あーあ、おれはダメだなと感じたり、自分がみじめに見えたりした時、「ハクナ・マタータ」と自分に言い聞かせて、また挑戦するのです。

ある学者は「成功した人生も、人生のひとつの生き方にすぎない。人間は成功しても、失敗してもいいのだ。大切なのは、何かを試みることなのだ。」(早稲田大学理工学部教授で心理学者の加藤諦三)と言います。また、オーストリアの心理学者は「最後まで忍耐して、あなたを必要としている者たちに答えなければならないのです。生きるとは答えることです。自分のことだけを考えてはいけません。」(「夜と霧」の作者、オーストリアの心理学者ビクトル・フランクル)と言っています。私たちは、日根野弘就のように利あらずと見ればじっと耐え続けて、生きることをあきらめてはならないのです。

最後になりましたが、私たちの学区には、江戸時代の大学者、熊沢蕃山の祖父や曾祖父が住んでいた瀬部の地、そして、戦国時代の末に、日根野弘就という不屈の武将が住んでいた時之島の地です。この「学問の芽」と「たくましく生きる力」を育んだ地が、瀬部小学校区です。皆さん、どうかこの歴史と伝統に誇りを持って、今日よりはさらに明るく中学校に進んでください。瀬部小学校のマスコットキャラクターは「セベスター」です。皆さんは瀬部小の期待の星として、夜空に広がる満天の星のように、綺羅星のごとく光り輝き活躍することを願ってやみません。本日は本当におめでとうございました。

平成19年3月20日

一宮市立瀬部小学校 校長 南澤力男